

第22回 滋賀不整脈カンファレンス

日 時：2005年6月11日(土)

場 所：大津市民病院9F

当番世話人：高岡医院 院長 高岡 篤

1. 3種類のPR時間を呈した間歇性 WPW, 房室2重経路の1症例

かとう医院

金 秀基(大津赤十字病院), 加藤 孝和
安田医院

安田隆三郎

症例は17歳, 男子高校生. 動悸などの自覚症状はなく, 突然死の家族歴のない. 学校心臓健診でBrugada型心電図と診断されて精査となった. V2でsaddle-back型のST上昇3mmをみとめ, V5のJ点はV2のR'の頂点に一致する. 肢誘導でIにsmallQ波をみとめるときのPR時間は0.14秒で, 認めないときのPRは0.16秒であり, 間歇性WPWと考えられた. これとは別に, ホルター心電図でPR0.32-0.30秒の心拍をみとめ, 房室2重経路と診断された.

WPW症候群に2重房室経路の合併は10-20%とされかならずしもまれではないが, WPWのような脱分極異常のあるときのBrugada型心電図の診断には注意が必要であり報告した.

2. 過常期伝導による交代性間歇性左脚 ブロック

大津市民病院

診療情報管理室 佐々木嘉彦
循環器内科 辻村 吉紀

間歇性脚ブロックは一般的に頻脈依存性であるが, 短いRRで正常波形を示す奇異性の間歇性脚ブロックにより交代性肢左脚ブロックを経験したので報告する. 症例は83歳男性, 陳旧性心筋梗塞, 糖尿病. 洞不整脈があり, PP間隔が0.79, 0.80, 0.82, 0.84秒では左脚ブロックを示し, これと交互に, PP間隔が0.78, 0.76, 0.75秒の時は正常波形になった. 心房期外収縮のためRR間隔が著しく短い0.55秒で出た際も正常波形であったことから, 左脚での過常期伝導による正常波形と考えられた.

過常期伝導による交代性間歇性WPW症候群, お

よび交代性間歇性右脚ブロックについてすでに報告したが, 今回は交代性間歇性左脚ブロックを報告した. 心室期外収縮二段脈についての鑑別, 心房期外収縮の過常期伝導について論じた.

3. 間入性心室期外収縮により惹起された回帰心拍で房室3重経路が示唆された1症例

かとう医院

加藤 孝和

大津市民病院

診療情報管理室 佐々木嘉彦

循環器内科 辻村 吉紀

三栄メディシスホルター解析センター

中村 香織

北海道大学

名誉教授 木下 眞二

症例は48歳女性, 高血圧で通院中に動悸を訴え心電図をとった. 固定連結性の心室期外収縮が頻発し, ときにそれに続いてやや波形の異なる2連発を認めた. 一見すると心室期外収縮の3連発に見えるが, あとの2拍は陰性P波をはさんで同じ波形を示していることから, いずれも上室性と考えられた. したがって, あとの2拍の1拍目は洞性P波が伝導したと考えられ, その際のPR時間が0.40, 0.52, 0.64-0.88秒の不連続な3段階に分けられた. 正常洞心拍のPR時間0.16秒とは明らかに不連続であり房室3重経路あるいは4重経路と考えられた.

4. Double ventricular response による頻拍を呈した1例

滋賀医科大学

循環器内科 伊藤 誠, 吉野 知秀

八尾 武憲, 小澤 友哉

堀江 稔

たかはし小児科循環器科医院

高橋 良明

【症例】 48歳女性, 主訴動悸. 非発作時心電図に異常はなかった. 動悸発作時には周期0.3秒の上室性頻拍を認めたため, カテーテルアブレーションの目的で入院した. EPSでは心房早期刺激にてAH時間のjump upを認め, long AH, short HAを示す通常型房室結

節リエントリ性頻拍が誘発された. 房室結節遅延導路に対し高周波通電を行い頻拍は停止した. しかし, 動悸が再発したため再入院した. 再発した頻拍のRR間隔は0.30秒と0.36秒との交互脈でRR間隔0.30秒の間にP波が認められたがRR間隔0.36秒の間にはP波は認めなかったことより, ひとつのP波に速伝導路と遅延導路を通して2つのR波が引き続く心室2重応答を疑った. EPSでは洞周期610msecのとき2つのV波(V₁, V₂)が見られ, それぞれのV波の前にH波(H₁, H₂)をともなっており, AH₁=110msec, AH₂=430msecであった. ATP 5 mg静注により速伝導路がブロックされ遅延導路でのみ心室応答を示した. このときAA=540-590msec, AH=400-410msecであった. 遅延導路に対し高周波通電を行ったところ, 頻拍は誘発できなくなったが, イソプロテレノール投与下では心房早期刺激にて心室2重応答が残った. 【結語】 高周波通電後に心室2重応答による頻拍発作をきたす例はまれと考え報告した.